

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : AC Delco シャーシブラック W
 品番 : 12378412
 会社名 : 株式会社 榎屋
 住所 : 愛知県名古屋市中区上前津二丁目9番29号
 担当部門 : 第1営業部
 担当者 : 矢野 芳和
 電話番号 : 052-331-5451
 FAX番号 : 052-332-4321
 緊急連絡先 : 技術開発本部 (TEL : 0566-83-2121 FAX : 0566-83-1172)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

・物理化学的危険性

引火性液体 : 区分3

・健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分外

急性毒性 (経皮) : 区分外

急性毒性 (吸入) : 区分5

皮膚腐食性・刺激性 : 区分3

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分外

呼吸器感作性 : 区分外

皮膚感作性 : 区分1

生殖細胞変異原性 : 区分1B

発がん性 : 区分2

生殖毒性 : 区分1A

特定標的臓器・全身毒性 (単回曝露) : 区分1 (神経系、腎臓)
 区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
 特定標的臓器・全身毒性 (反復曝露) : 区分1 (中枢神経、呼吸器系、心臓、肝臓)
 区分2 (肝臓、精巣、神経)

吸引性呼吸器有害性 : 区分外

環境に対する有害性

水性環境急性有害性 : 区分2

水性環境慢性有害性 : 区分2

絵表示またはシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

- ・引火性液体及び蒸気
- ・吸入すると有害のおそれ
- ・軽度の皮膚刺激
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・遺伝性疾患のおそれ
- ・発がんのおそれの疑い

- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- ・臓器<神経系、腎臓>の障害
- ・呼吸刺激を起こすおそれ、および眠気やめまいのおそれ
- ・長期にわたる、または、反復曝露により臓器<中枢神経、呼吸器系、心臓、肝臓>の障害
- ・長期にわたる、または、反復曝露により臓器<肝臓、精巣、神経>の障害のおそれ
- ・水性生物に毒性
- ・長期的影響により水生生物に毒性

注意書き：

- ・容器を密閉しておくこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・熱，火花，裸火，高温のような着火源から離して保管すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・保護手袋／保護眼鏡／保護面／保護衣を着用すること。
- ・容器及び受器を設置すること／アースをとること。
- ・取扱い後は手洗い、うがい及び鼻孔洗浄を十分に行うこと。
- ・取扱い後は作業衣等に付着した汚れを良く落とすこと。
- ・粉塵，煙，ガス，ミスト，蒸気，スプレーの吸入しないこと。
- ・防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
- ・火花を発生しない工具を使用すること。
- ・局所排気内、または全体換気のある場所で取扱い、蒸気が滞留しないようにすること。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・環境への放出をさけること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

成分及び化学式	含有量 (%)	官報公示整理番号 (化審法)	CAS No.	PRTR 対象	安衛法
フタル酸ジ-n-ブチル	3.4%	479	84-74-2	第1種 (354)	479
エチレングリコールモノターシャリーブチルエーテル	1~5%	—	7580-85-0	対象外	非該当
ミネラルスピリット	1~5%	—	64742-89-8	対象外	551
エチルアルコール	1~5%	(2)-202	64-17-5	対象外	61
エチレングリコール	0.1~1%	(2)-230	107-21-1	対象外	75
カーボンブラック	0.1~1%	(5)-5222	1333-86-4	対象外	130

4. 応急措置

- 目に入った場合：直ちに清浄な水で数分間注意深く洗眼すること。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼への刺激が続く場合は医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合：汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。多量の水および石鹸又は皮膚用洗剤を使用して十分に洗うこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合医師の診察/手当てを受けること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合：安静にして直ちに医師の診断を受けること。嘔吐物は飲み込ませないようにする。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

消火剤 : 乾燥砂, 粉末, 二酸化炭素, 泡沫等

消火方法: 可燃性のあるものを周囲から速やかに取り除くこと。

消火作業は、指定の消化剤を使用し、可能な限り風上から行う。

6. 漏出時の措置

- ・作業の際は適切な保護具（保護手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
- ・付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、換気をよくする。
- ・衝撃、静電気にて火花が発生しないような、材質の用具を用いて回収する。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をすること。
- ・流出した製品が河川等に排出され、環境へ流出しないよう注意する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂（おかくず、土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウェス、雑巾等でよく拭取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- ・温度が40℃以上の所や火気のある所では取り扱わないこと。
- ・容器内の圧力が高くなっている場合は蓋を少しゆるめて圧力を抜き蓋を外す。
- ・使用済みウエス、塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまで水に漬けておく。
- ・周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- ・容器は衝撃や落下又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
- ・容器は使用の都度キャップをかぶせること。
- ・局所排気内、または全体換気のある場所で取扱い、蒸気が滞留しないようにする。
- ・防毒マスク又は送気マスク、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。

保管

- ・直射日光の当たるところや温度が40℃以上になる所に保管しないこと。
- ・通気の良い場所に保管すること
- ・火気、熱源から遠ざけて保管すること。
- ・子供の手の届かない所に、施錠して保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

物質名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)
フタル酸ジ-n-ブチル	未設定	未設定	5 mg/m ³
エチレングリコールモノメチルエーテル	未設定	未設定	未設定
ミネラルスピリット	未設定	未設定	未設定
エチルアルコール	未設定	未設定	1000ppm
エチレングリコール	未設定	未設定	100 mg/m ³
カーボンブラック	未設定	未設定	3.5mg/m ³

設備対策:

- ・取扱い設備は防爆型を使用する。
- ・局所排気装置などにより作業者が曝露から避けられるような設備とする。
- ・取扱場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とする。

保護具

呼吸用保護具: 防毒マスク（有機ガス用）を使用する密閉された場所では送気マスクを着用する。

保護眼鏡: 保護眼鏡を着用する。

保護手袋: 耐薬品性手袋を着用する。

その他: 導電性安全靴を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観等	: 黒色の液体
臭い	: 微アクリル臭
pH	: 7~10 (20℃)
融点/凝固点	: データ無し
初留点と沸点範囲	: データ無し
引火点	: 53℃
蒸発速度	: データ無し
火炎燃焼性(固体、気体)	: データ無し
上限/下限、引火または爆発限界	: データ無し
蒸気圧	: 2338 Pa (20℃水)
蒸気密度	: データ無し
相対密度	: 1.01 (20℃)
溶解度	: 水に溶解
n-オクタノール/水分配係数	: データ無し
自然発火温度	: データ無し
分解温度	: データ無し

10. 安定性及び反応性

安定性：通常の条件では安定。

反応性：酸化剤との接触により発熱の恐れがある。

危険有害な分解生成物：燃焼するとCO・NO_xなどを発生することがある。

11. 有害性情報

製品としての安全性試験をしていない、参考として含有成分の有害性情報を以下に記載する。

物質名	急性毒性				
	経口	経皮	吸入(ガス)	吸入(蒸気)	吸入(粉塵,ミスト)
フタル酸ジ-n-ブチル	区分外	区分外	分類対象外	分類対象外	区分外
エチレングリコールモノメタクリレート	区分外	分類できない	分類対象外	分類できない	区分外
ミネラルスピリット	区分外	分類できない	分類対象外	分類できない	分類できない
エチルアルコール	区分外	区分外	分類対象外	区分外	分類できない
エチレングリコール	区分5	区分外	分類対象外	分類できない	分類できない
	ラット LD50 4,000-10,200 mg/kg				
カーボンブラック	区分外	分類できない	分類対象外	分類できない	分類できない

物質名	皮膚腐食性/刺激性	眼損傷性/刺激性	呼吸器感作性	皮膚感作性
フタル酸ジ-n-ブチル	区分3	区分3	分類できない	区分1
エチレングリコールモノメタクリレート	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
ミネラルスピリット	区分2	区分外	分類できない	区分外
エチルアルコール	区分外	区分2B	分類できない	分類できない
エチレングリコール	区分3	区分2B	分類できない	分類できない
カーボンブラック	区分外	区分外	分類できない	分類できない

物質名	生殖細胞変異原性	生殖毒性	特定標的臓器毒性(単回暴露)
フタル酸ジ-n-ブチル	分類できない	区分 1B	区分 3(気道刺激性)
エチレングリコールモノメタクリレート	分類できない	分類できない	区分 3(麻酔作用)
ミネラルスピリット	区分外	区分外	区分 3(気道刺激性,麻酔作用)
エチルアルコール	分類できない	区分 1A	区分 3(気道刺激性,麻酔作用)
エチレングリコール	区分外	区分 1B	区分 1 (中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器)
カーボンブラック	分類できない	分類できない	分類できない

物質名	発がん性	吸引性呼吸器有害性	特定標的臓器毒性(反復暴露)
フタル酸ジ-n-ブチル	分類できない	分類できない	区分 1(呼吸器)
エチレングリコールモノメタクリレート	分類できない	分類できない	区分 1(血液系)
ミネラルスピリット	分類できない	区分 1	区分 2(肝臓、精巣)
エチルアルコール	区分 1A	分類できない	区分 1(肝臓),区分 2(中枢神経系)
エチレングリコール	区分外	分類できない	区分 1 (中枢神経系、呼吸器、心臓)
カーボンブラック	区分 2	分類できない	区分 1 (肺)

1 2. 環境影響情報

- ・生態毒性 : データ無し
- ・残留性と分解性 : データ無し
- ・生物蓄積性 : データ無し
- ・土壌中の移動度 : データ無し
- ・他の有害影響 : データ無し
- ・成分の環境有害情報

物質名	水生環境有害性(急性)	水生環境有害性(長期間)	オゾン層への有害性
フタル酸ジ-n-ブチル	区分 1	区分 2	分類できない
エチレングリコールモノメタクリレート	区分外	区分外	分類できない
ミネラルスピリット	区分 1	区分 1	分類できない
エチルアルコール	区分外	区分外	分類できない
エチレングリコール	区分外	区分外	分類できない
カーボンブラック	区分外	分類できない	分類できない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 :

- ・中身を使い切ってから廃棄する。
- ・容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さないこと。
- ・排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。

汚染容器・包装 :

- ・内容物や容器を廃棄する際は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄業者に業務委託して下さい。

1 4. 輸送上の注意

- 国連分類 : クラス 3 (引火性液体)
- 国連番号 : 1 2 6 3
- 緊急時応急処置指針番号 : 1 2 8

- ・取扱い及び保管上の注意の項の一般注意に従う。
- ・運搬に際しては、容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
- ・その他、消防法、労働安全衛生法等それぞれの定めるところに従う。

1 5. 適用法令

高圧ガス保安法	: 非該当
消防法	: 非危険物 指定可燃物 (可燃性液体)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	: 第一種指定化学物質含有
労働安全衛生法	: 危険物(引火性の物)
有機溶剤中毒予防則	: 非該当
船舶安全法	: 危険物 (高圧ガス)
航空法	: 危険物 (高圧ガス)

1 6. その他の情報

主な引用文献：

- ・化学物質等安全データシート (MSDS)
- ・産業中毒便覧 (医歯薬出版社株式会社)
- ・14705 の化学薬品 (化学工業日報社)
- ・改訂第2版 労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ (化学工業日報社)
- ・改訂第2版 緊急応用措置指針 (化学工業日報社)
- ・GHS 分類結果データベース (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・化学物質総合情報提供システム (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)
- ・GHS 対応 MSDS・ラベル作成ガイドブック (日本塗料工業会)
- ・GHS 対応版ラベル・MSDS 作成マニュアル (日本オートケミカル工業会)
- ・溶剤ポケットブック (オーム社)

本 SDS は安全な使用と取扱いを確保するための参考資料として現時点で入手できる、正確であると信用できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、多くの情報は弊社外の情報源から入手したものであり、その正確性、確実性を保証することはできません。また、製品についていかなる保証をするものでもありません。危険、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱う事業者はこれを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずる事が必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

